

波郷 記念館 だより

砂町文化センター
NEWS

第61号



発行日 2023年9月25日

江東区砂町文化センター

〒136-0073

東京都江東区北砂 5-1-7

電話 03(3640)1751

来たる十月二十日、砂町文化センターではNHK主催
覧会関連文化講演会「メイキング・オブ・ムナカタ―棟方
志功のつくり方―」が開催されます（お申し込みは砂町文
化センターまで・先着順）。

棟方志功（むなかたしこう）は、一九〇三（明治三十六）
年、青森県出身の板画家です。一九七五（昭和五十）年に
亡くなりました。柳宗悦、河井寛次郎らの民藝運動に影響
を受け、また「版画」を「板画」と称し、木版の特徴を生
かした作品を創り続けました。

棟方志功と俳人・石田波郷の間には、共著『胸形變板画
巻』を通して交流がありました。この作品は、波郷の句集
『胸形變』（きょうぎょうへん）（一九四九年刊）の俳句を、
志功が板画に彫ったものです。「胸形變」とは、波郷の造
語で、手術で肋骨を切り取られ胸の形が変わったことを意
味しています。胸の手術を詠んだ「たばしるや鴟叫喚す胸

形變」を句集のタイトルとしても用いました。

『胸形變板画卷』制作のきっかけについて、俳人で歯科
医の吉良蘇月（憲夫）は次のように述べています。

「棟方と）波郷氏の句集『胸形變』の話となった。『胸形變』
の俳句のすさまじさに感動され、版画に彫り上げてみたいと声
高に句を読み上げられるのあった。波郷先生の許可を得るため
に私が波郷宅へととんで行った」

「俳句研究」昭和六十二年八月号

そして、制作は、句集『胸形變』をもとに、志功が三行
彫りで迫力のある文字を彫り、余白には板画を飾りました。



「『胸形變板画卷』の

箱書きを認める志功」

石田あき子『石田波郷アルバム』

1975、東京美術 より

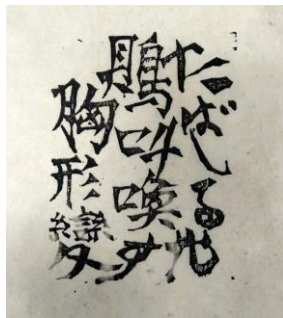
雪はしづかにゆたかに

はやし屍室

（板画は白鷺の図）

『胸形變板画卷』より

石田波郷記念館所蔵



たばしるや鴟叫喚す胸形變

（板画は無紋余白）

『胸形變板画卷』より

石田波郷記念館所蔵





石田波郷記念館

俳句結社「鶴」紹介コーナー
扁額は常設展示室でご覧いただけます。

この他にも、石田波郷記念館（砂町文化センター内）では波郷と志功に係る資料を所蔵しています。
左は波郷の代表句「吹きおこる秋風鶴をあゆましむ」に因んで志功が贈った扁額「風鶴」です。



昭和二十六年四月三日 於東京国立博物館前

「波郷療養中の作品『胸形変』から三十七句を選び吉良憲夫編・棟方志功板画による『胸形変板画卷』が二月二十日発刊になった。春の国展、工芸部にこれを出品するため上京した棟方夫妻に波郷ははじめて会った。

左から棟方夫人 棟方志功 波郷 吉良蘇月」

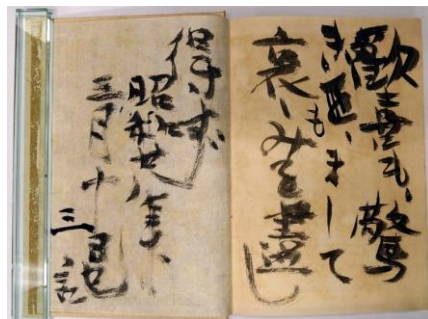
石田あき子『石田波郷アルバム』より

最後に、志功が波郷について述べている文を抜粋します。
「いつも遠くの山を見てある様な気がする方でした。遠くに風が立つてゐても、こつちには寄せて来ない様な清日の日の朝早い日の遠山です。はつきり山は見えてゐても遠い感じの山でした。別に近よりたいといふ遠山ではありません。ただ行つても行かなくても望まれる清い山たつた様でした」棟方志功「胸形の鶴」『俳句』昭和四十五年二月号（石井頼子『言霊の人 棟方志功』二〇一五年、里文出版 引用）



「石田波郷先生 棟方志功

昭和廿八年三月十二日」



「欣喜も、驚きも、まして哀しみを畫し得ず

昭和廿八年三月十三日記」

もう一点、波郷が所蔵していた棟方志功著『板響神』（ばんきょうじん）（一九五二年）。志功から波郷への惠贈本です。志功の自筆で書き込みがあります。

第23回

石田波郷記念「はこべら」俳句大会 投句受付中

昭和を代表する俳人・石田波郷を顕彰する「はこべら」俳句大会を、波郷が「第二の故郷」と呼び愛した砂町の地で開催します。

今年のテーマ句は、兼題「東」です（下記をご参照ください）。

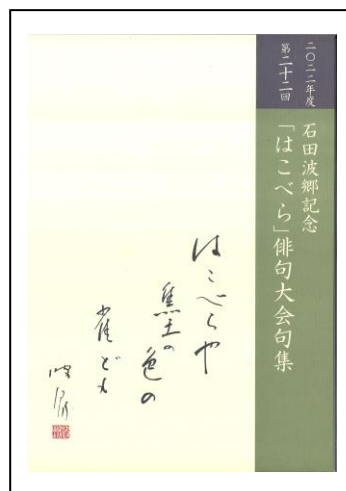
- 投句 二句一組（何組でも可。未発表作品に限ります。）
 - 「波郷を偲ぶ句」、または今年のテーマ句（兼題「東」）より一句
 - 雑詠一句

- 選者 上田日差し・岸本尚毅・鈴木しげを・徳田千鶴子・能村研三
(五十音順)

- 賞 石田波郷記念「はこべら」賞 一名
石田波郷記念館賞 一名
各選者による特選三句、入選十句

- 投句料 二句一組 1,000円

- 大会句集 授賞式までに、投句者全員に送付。
句集には、投句いただいた作品をすべて掲載いたします。



第22回大会句集

- 締切 12月10日（日）必着

※詳細は、江東区内各文化センター、総合区民センター、芭蕉記念館で配布の「募集要項・投句用紙」またはホームページをご覧くださいか、砂町文化センターへお電話ください。

「俳句実作講座～“句作の座”をたのしむ～」

キャンセル待ち受付中

「実作」「句会」「吟行」をとおして、上達するための技法を学びます。
俳句を学びなおしてみたい人も大歓迎です。

■講師 鈴木しげを（「鶴」主宰）

■日程

10月28日(土)	俳句の基礎知識を学ぶ
11月25日(土)	俳句指導・句会
12月23日(土)	俳句指導・句会
1月27日(土)	俳句指導・句会
2月24日(土)	吟行(砂町界隈を予定)

■時間 13:30～16:00

■回数 全5回

■会場 砂町文化センター
2階 第1会議室

■定員 20名

■受講料 7,500円(全5回分)

■教材費 500円(全5回分)

※コピー代など

砂町で吟行&句会を開いてみませんか

【施設のご案内】～句会に～

砂町文化センターでは、「会議室」などをお貸出ししております（有料）。
センターには、「石田波郷記念館」、「砂町図書館」が併設されています。
図書館には「俳句関連図書コーナー」もあります。

【周辺のご案内】～吟行に～

文化センターの周辺には、石田波郷も歩いた妙久（みょうきゅう）寺や志演（しのぶ）
尊空神社、JR貨物小名木川（おなぎがわ）線などがあります。
また、小名木川や仙台堀川公園、江戸時代に建てられた旧大石家住宅（江
東区指定文化財）など散策をお楽しみいただけます。

【会議室を利用するには】

3か月前の3日午後1時から、お電話で予約をお受け付けいたします。

（例えば、4月3日午後1時から、7月分の受付を開始します。）

詳しくは、砂町文化センターホームページをご覧ください。お電話にてお気軽にお問い合わせください。